

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立千鳥小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・タブレットドリルを活用した復習や、放課後補習、算数ドリル等の家庭学習をとして、繰り返し学習を行い、算数の基礎基本的な学力を定着させた。
- ・算数が得意な児童が、苦手な子に対して教えたり説明したりする姿をたくさん見かける。助け合いや教え合いの態度が身に付いている児童が多い。

(2) 課題

- ・算数で学んだことを他教科で使ったり、日常生活に生かしたりできるよう指導していく。
- ・日常の出来事を結び付けることで、算数で学習したことが使用できる便利さを実感し、学習する意欲を高める。
- ・目的に応じて多様な表現方法を用いながら、簡潔に説明したり表したり考察したりする力を身に付ける。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った ○…目標値と同程度 △…目標値を下回った

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	△	/	/
第5学年	◎	○ (第4学年時)	/
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年（4年生）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算における計算間違いや問題の見落としなどが目立った。計算方法の理解が不十分である。 ・時間や重さなど測定についての問題は、概ね目標値に達している。 ・単位換算の技能に課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題の問いの意味や情報を読み取ることができず、正しく立式することができていない。 ・計算問題を処理することは概ねできているが、解き方を説明することや、図式化することに課題が残る。。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容と生活場面が結びつかず、活用されにくい。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回っている。 ・余りのあるわり算が十分に定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値、区平均を上回っている。 ・小数の計算や小数・分数の大小比較について概ね定着している。 ・ひし形の作図が十分に定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値、区平均を上回っている。 ・データの読み取りの問題は、概ね定着している。しかし、1目盛りの大きさが違う2つのグラフをもとに、間違いを指摘する問題に課題が残る。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでなく、家庭学習で繰り返し計算問題に取り組み、素早く正確に計算する力を培う。 ・計算カードやプリント、タブドリ Live 等を活用して復習を繰り返し、基礎基本的な学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題においては、場面絵を用いながら思考させたり、キーワードに着目させて、意味を理解した上で立式することができるようにしたりする。 ・ブロック操作を活動に取り入れたり、具体物を用いて直接比較や間接比較をさせたりすることで、数の構成や長さ・体積についての感覚を体得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加法や減法等の式の表し方や計算の仕方考えた課程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学べるようにする。 ・身の回りにあるものの面積や体積、長さ等に関心を持ち、日常生活でも活用する場面を伝えながら、主体的に取り組む態度を養う。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・より定着するように、授業や家庭学習を活用し、計算練習をする機会を多く設ける。 ・既習の用語を使って説明させたり、数量や図形に実際に触れられるものは、触れるようにしたりして、数学的な感覚を豊かにしていく。 ・筆算するときは、算数ノートのマスを活用して、繰り上がりや繰り下がりのミス無くすように声掛けする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力を養う。 ・数についての感覚を一層豊かにするとともに数の大きさや構造に着目して表し方を考え、日常生活に生かせるようにする。 ・解き方を全体に伝える場面を設定し、言葉や図、式などを用いて説明させる。その際、ノートや黒板だけではなく、ICT 機器の活用も行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を用いて、よさや楽しさを実感させる。 ・問題提示や課題設定を工夫することで、児童の発言を認めながら適切な考えや解決方法に導いて、児童が意欲的に取り組み、達成感を味わえるようにする。 ・多様な考えを取り上げ、課題を多面的に捉えられるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・基礎の定着だけでなく、応用問題に取り組む時間を設け、基礎を活用できる経験を積ませる。・立式が困難だったり、時間を要したりする児童もいるので、問題文をよく読ませ、何が問われているのかを明確にしたり、数直線図や4マス関係表などに置き換える活動を取り入れる。	<ul style="list-style-type: none">・問題を多面的に捉えたり、複数の考えから似ているところや違うところを比べたりして、より良い考えの再構築を図り、問題解決できる力を養っていく。・自分の考えを文章、図、式、表などを用いて表現し、対話しながら他者に説明する場面を設け、論理的思考力や豊かな表現力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none">・学習したことを生活で使える場面を想起させることで、算数のよさや便利さに気付き、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。・タブドリ Live は、瞬時に正誤が判定されるので、得意な児童には、それを効果的に活用し、計算問題を中心に主体的に取り組めるようにする。